

< 2026年大学日本画展開催のお知らせ >

UNPEL GALLERY（アンペルギャラリー）は、運営母体であるあいおいニッセイ同和損保のメセナ活動として、全国の大学・美術大学と連携し日本画を学ぶ学生・卒業生に発表の場を提供しております。この企画は、日本画を志す若手作家の育成とともに、全国の美術教育・研究活動を支援し、日本画の伝統と日本文化の「美意識」「精神性」「技法」を未来へ受け継ぐことを目指すものです。

2026 年から 10 校が参加、若手日本画作家がそれぞれの作品を発信するロングラン企画（1 月～8 月）です。今回は 5 月 16 日（土）から九州産業大学日本画専攻の在學生と卒業生、江淵慎平・仲間琉妃・園田瑞穂 3 名による展覧会を開催いたします。

■展覧会概要

タイトル	『等間隔』 ～第 45 回大学日本画展 <九州産業大学展>～
会期	2026 年 5 月 16 日（土）～5 月 31 日（日） 11:00 ～ 19:00（月曜定休・最終日 17:00 まで）【入場無料】
会場	UNPEL GALLERY 東京都中央区日本橋 3-1-6 あいおいニッセイ同和損保八重洲ビル 1F
参加作家	江淵 慎平（えぶち しんぺい）、仲間 琉妃（なかもり ゆうき）、園田 瑞穂（そのだ みずほ）
展覧会内容	タイトルの「等間隔」は、3 人を年齢順に並べた際の年の差が 2 年ずつ開いており、等間隔になることからきています。大人になるにつれて年齢の差は意識されなくなりますが、日本画という共通手段により、差があることによって生まれる感覚の違いは、各作家の経験や思考を背景として、作品の主題や表現方法に反映されています。 3 人それぞれが大切にしてきたもの、考えていること、目指す表現など、間隔があるからこそ味わえる様々な作品をぜひご高覧いただくと幸いです。
主催	九州産業大学 芸術学部絵画専攻 日本画
企画	UNPEL GALLERY
協賛	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

<ご連絡・お問い合わせ先>

ギャラリーオフィス 11:00～19:00 月曜定休（担当 / 井上・渡邊）

E-mail / tsubaki@unpel.gallery <https://unpel.gallery/>

TEL / 03-3548-7780 FAX / 03-3548-7781 * お問い合わせは E-mail にてお願いします

■作家プロフィール

江渕 慎平（えぶち しんぺい）

福岡県出身

2024 年 九州産業大学 入学

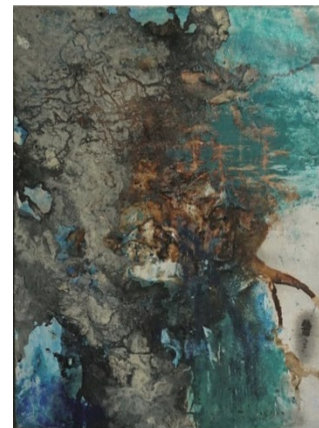
2025 年 石本正日本画大賞 入選

【コメント】

この一連の作品は、山や川が形作られてそして崩れていく一生をテーマに制作しました。人生や世界のありとあらゆる事が、無限回に繰り返される永劫回帰という言葉から着想を得ました。

土や砂、粘土など様々な素材を使って物質感を出しています。

120 号 1 枚、S50 号 3 枚、F50 号 1 枚、小作品数点出品予定



「永劫回帰 杜」

2025 年制作 65×50 mm

パネル、油彩、蜜蝋、墨、粘土

仲間 琉妃（なかま りゅうき）

沖縄県宮古島出身

2024 年 九州産業大学大学院芸術研究科 入学

2026 年 九州産業大学大学院芸術研究科 修了

2024 年 グループ展「第 27 回大学日本画展（九州産業大学）ひびの_」
（アンペルギャラリー、日本橋）

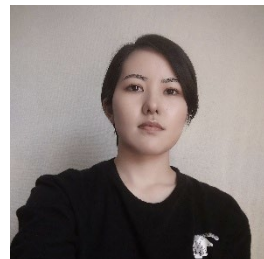
2026 年 個展「仲間琉妃展」（Artist Cafe Fukuoka、福岡）

【コメント】

「変わってほしくない」という思いを抱えたまま、どうすれば変わり続ける現実をやり過ごせるのか考え制作しています。

ほとんどの作品に銀箔を使っており、煌めきつつモノトーンで落ち着いた作品づくりを心がけています。そのままでは変色してしまう銀をドーサ液を使い銀色のまま留めることは、変化していく現実を変わらずやり過ごす方法のひとつであると思っています。変化や発展が求められる現代において、変わらないでいることを肯定できればいいなと思います。

100 号 2 枚、小作品数点出品予定



「とめて」

2026 年 1620 × 1303 mm

パネルに麻紙、墨、胡粉、岩絵具、銀箔

■作家プロフィール

園田 瑞穂（そのだ みずほ）

福岡県出身

2026 年 九州産業大学芸術表現学科 卒業

九州産業大学大学院芸術研究科 入学

2024 年 福岡県美術展覧会福岡県知事賞 受賞

2025 年 福岡市美術展大賞 受賞

ART FAIR ASIA FUKUOKA 2025

（マリンメッセ福岡 B 館/福岡）

【コメント】

絵を描くという行為は、言葉を使わなくても自身の考えや感情を表せる 1 つの手段であると考えています。これにより、「伝える」ということを主軸に作品を制作してきました。何気ない日々を過ごしていく中で、不意に湧いてくる興味や疑問に対して調べ、これまでの経験や新しく生まれた感情、考えなどを表現しています。

また、生き物はそれぞれの種類や個体によってコミュニケーションの方法が異なりますが、動物も人間同様「嬉しい」「好き」などの感情をもち、伝えようとする想いは同じです。そのため、動物特有の個性を活かした伝え方でも、私の心の内側を表現出来るよう試みています。

M100 号 1 枚、P150 号 1 枚、小作品数点出品予定



「この先もずっと」

2026 年 1620 × 2273 mm

パネルに麻紙、水干絵具、岩絵具